自施設にできること

~スムーズに入院に移行できた事例~

社会福祉法人 光誠会 特別養護老人ホーム ひかり苑

〇野口 栄亮 室 陽輔 西川 直樹

【施設紹介】



地域に貢献できる施設を目指します。

【ひかり苑 体制】

フロア名	利用者数	介護職員			
		早出	日勤	遅出	夜勤
ひまわり	27名	2人	1~3人	1人	1人
もみじ	34名	2人	1~3人	1人	1人
さくら	16名	2人	1~2人	1人	1人
すいせん	21名	2人	1~2人	1人	1人
	合計 98名				
(全体:ショ	ートステイ8名	(含む)			

<u>診療所 (看護職員) 3~5人 1人</u> (オンコール対応)

※宿直者1人(救急対応等行う)

救急対応マニュアルの紹介

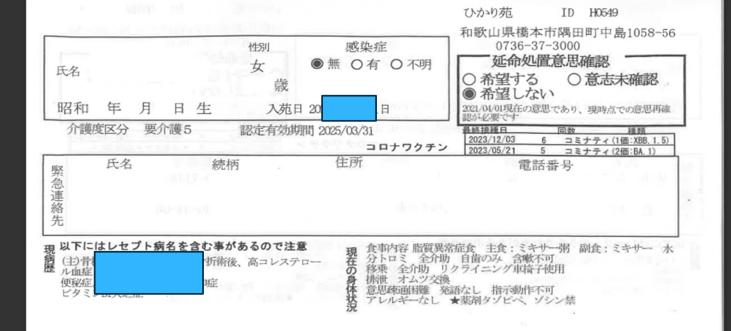
* 日中、夜間のマニュアル

* 緊急ファイルの紹介

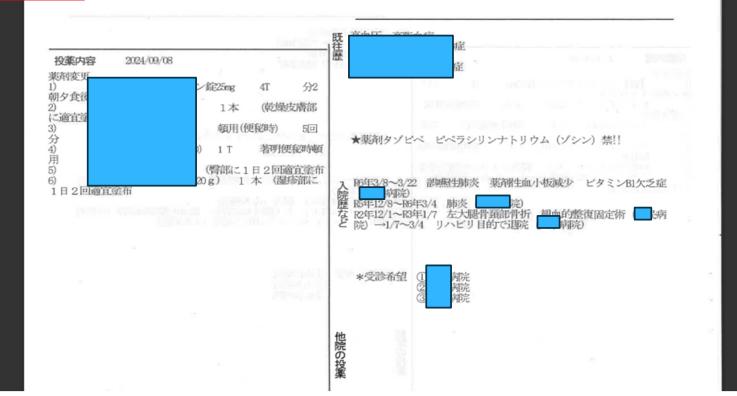


番号	作業項目	作業内容	その他
1	特変	・状態観察。 ・特変者の状態把握。 ※状態により、即119に連絡。	・日中、状態不良者がいれば、看護師より指示確認。・体調不良時には、事前に家人連絡行い、状態報告を行った上で必ず連絡が繋がるよう伝える。
2	様子観察	・処置後の経過観察。・状態の把握に努める。・掛かりつけ医を把握。	
3	救急要請	・119に連絡。・事務職員に新館、旧館のどちらのエレベーターを使用するか、声を掛けておく。・家人へ連絡時、状態報告、搬送先、延命措置の有無も確認。	・看護師は、個人カルテ・保険証を 用意する。・家人・上司に連絡。・掛かりつけ医は何処かを説明。
4	救急隊到着	・状態を報告する。	・事務職員は、救急隊員の誘導を行う。
5	搬送	・救急隊員による搬送。・使用物品の片付け。・付き添いは、受診担当の看護師が行う。搬送先が確定すれば、同行者から家人へ連絡・家人到着まで、同行者が付き添う。	対応マニュアル(日中)
6	その他	・病院にて家人と引継ぎ、帰苑。・家人引継ぎし、同行者は事務職員に送迎の連絡	洛し、帰苑。
7	連絡	・付き添いの看護師から受診結果の報告を 受ける。	・入院になれば、看護サマリー、 嚥下パス、内服薬の準備。 ・看護サマリーは持参もしくはFAX。
8	記録	・特変の経過~受診結果までを業務日誌に記録・個人カルテに記載。・受診結果をPCにてドクターに報告。・次回受診があれば受診日を予定表・白板に記載	する。

番号	作業項目	作業内容	その他
1	特変	・状態観察。・特変者の状態把握。・宿直者へ連絡。※状態により、即119に連絡。	・日中、状態不良者がいれば、看護師より指示確認。・体調不良時には、事前に家人連絡行い、状態報告を行った上で必ず連絡が繋がるよう伝える。
2	様子観察	・処置後の経過観察。 ・状態の把握に努める。 ・掛かりつけ医を把握。	・家人へ都度最新の状態を報告。
3	救急要請	・119に連絡。・介護明細と緊急ファイルをプリントアウトする。・宿直者に新館、旧館のどちらのエレベーターを使用するか、声を掛けておく。	・宿直者は、個人カルテ・保険証を用意する。・家人や上司に連絡し、玄関を開錠する。・天佳苑宿直に救急要請報告。・掛かりつけ医は何処か報告。
4	救急隊到着	・状態を報告する。 ・救急隊より延命治療の確認をする場合 家族と救急隊との話し合いしてもらう事	ニュアル(夜間)
5	搬送	・救急隊員による搬送。・使用物品の片付け。※付き添いは、基本的に宿直者が行う。搬送先が確定すれば、宿直者から家人へ連絡する。	・搬送特養職員にて、加定。各持ち場に戻る。・家人到着まで、宿直者が付き添う。・各職員は宿直者帰苑まで外線電話対応。
6	その他	・病院にて家人と引継ぎ、帰苑。	・家人引継ぎし、宿直者は天佳苑宿直 に送迎の連絡し、帰苑。
7	連絡	・付き添いの看護師から受診結果の 報告を受ける。	・入院になれば、看護サマリー、 嚥下パス、内服薬の準備。 ・看護サマリーは持参もしくはFAXする
8	記録	・特変の経過~受診結果までを業務日誌に記録する。・個人カルテに記載。・受診結果をPCにてドクターに報告。	・次回受診があれば受診日を予定表・白板に記載。



緊急ファイル



ケース紹介

- *90歳台 女性
- *要介護4
- *3か月前に入所
- *「私は死ぬまでトイレで排泄したい」



経過

*令和6年10月21日(月)

左鼠径部と腰痛の訴えあり 食欲不振

*10月28日(月)食欲不振のためA病院入院

*11月 1日(金)退院

*11月 6日(水) 左腰部、鼠径部の痛み持続 食事をほぼ摂取しなくなった カンファレンス開催

* 11月 7日(水)受診 入院

入院後

*坐骨、恥骨、腸骨骨折と診断

*現在は退院、入所に向けて調整中



結果

- * 多職種でカンファレンスを実施し受診の判断をした
- *カンファレンスの結果や日頃の経過を家族にも
 - 共有することで、母親を心配し来所もあり
 - スタッフとのコミュニケーションもとり
 - 入院時もすぐに駆けつけてくれた
- *救急車を利用せずに受診ができた
- *病院の診察時間内に判断ができた
- *現在は、最後までトイレを使用したいという本人の意思をかなえることができるように カンファレンスを開催し検討中



まとめ

- *看取り支援は臨終の場面(点)だけではなく経過(線)である。
- *利用者とともにいる時間を有効に生かしその人の大切にしたいことを確認する等の関係づくりも看取り支援である。
 - このことをスタッフにも共有していきたい。
- *関係者様を含む地域の方々に自施設の方針(限界)を理解していただき、今後も連携を絶やさず、利用者が笑顔で過ごせる環境を提供していきたい。



ご清聴ありがとうございました